

第2回
東大阪市中小企業振興会議
労働雇用部門会議

令和元年11月7日
経済部 労働雇用政策室

就活ファクトリー東大阪の報告

平成30年度の労働雇用部門会議において、就活ファクトリー東大阪の目標である「市内企業に100人就職するために」ご議論いただいた。そして、いただいた提言を基に以下の取組みを行ってきた。その取組みについて報告する。

- ①ファクトリーと同一フロアにある「ゆめっこ（布施）」以外の子育て支援センターへの出張【資料1】
- ②大学との連携【資料2】
- ③広報【資料3-1・3-2】

アンケートについて

（学生向け）

「東大阪市内および近隣の6大学の学生の就職意識調査【資料4】」に関するアンケートを、11月から12月上旬にかけて各大学で開催予定の就職ガイダンス及び、キャリアセンターの窓口にて配布する予定。

（事業者向け）

前回の部会にて、障害者雇用の実態についても調査するべきではというご意見をいただいた。再度、企画室と調整を行った結果、アンケート項目に入れる方向となった。また、特徴のある企業にヒアリングや先進的事例に関する情報収集を行うことも考えており、アンケートでは聴き取れない詳細な内容については、ヒアリングで聴き取ることを考えている。11月下旬くらいに委託業者が決定する予定。

今後の方向性について

今後、少子高齢化、人口減少が進むと考えられる中、人材確保が喫緊の課題となっている。多様な人材に目を向けて、働く意欲のある人たちが働きやすい環境を提供していくと共に、効果的に企業の魅力についてアピールを行っていく必要がある。

課題解消に向けて、労働雇用政策室としては、東大阪市の特徴や、昨今の労働環境の変化を鑑みながら、2側面からの支援（求職者支援と企業支援）を行っていく。人材不足が解消されることで、市内産業が活性化し、ひいてはまちの活性化に繋がる。元気なまち、活気あふれるまちというイメージがつくことで、人口の流出・減少の抑制が期待される。また、求職者が就労することで、就労を通じた社会進出が可能となり個人の活躍が期待できる。人が集まってくることで、さらなる人材確保が可能となり、好循環が期待できる。【資料5】

そのためには、

- ・多様な人材を積極的に活用すること
- ・市内及び近隣に6大学が立地し、学生のまちである本市の特徴を活かし、学生や若者の流出を防ぎ、市内企業へ結びつけること

・学生や若者、働く意欲のある人たちに、高い技術力を誇る当市の企業の魅力を効果的にアピールし、就業につなげていくことに力を入れながら、施策を行っていく。

□（多様な人材の積極的な活用）について

現在、労働雇用政策室においても、多様な人材の活用が促進されるよう、対象者別の事業を行っている。【資料7】

少子高齢化が進む中、人口は減少しているが、就業者数が増加している。これは、昨今、女性と高齢者の就業数が増加したことが要因の1つとなっている。【資料6】

また、障害者や外国人などの雇用に係る法律が改正され、今後の活躍が期待される。求職者市場の構造が変化し、採用する企業にも、その変化の対応が求められる。個人の特性や事情を理解し、多様な働き方を提供することが求められる。【資料8】